

星と博士と弟

シアンコメット

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは小さな星くずの物語のつづきのお話…

スーパーヒーローと星の子たちの活躍のおかげで平和が戻った宇宙で

星の子たちのママは旅を続けます。

その道中で出会ったのは、変わり者の博士、スーパーヒーローの弟、そして…

スーパーマリオギヤラクシーのストーリーからつながるこの物語、

目次

エピソード0 あの日の涙と博士の日記

1

エピソード0 あの日、の涙と博士の日記

「本当に行っちゃおうの？」

「ごめんね、でも私はこの星の子のママをさがしてあげなくちゃいけないの。」

「じゃあ、僕も行くよ。僕だって姉さんの役に立ちたいんだ」

「ありがとう、ハイド。やっぱりあなたは優しいわね。」

でも、こればかりは一人でどうにかしなきゃいけないの。

「そこまで言うなら…。」

うん、姉さんならきつとその子のママを見つけられるよ。

僕はそう信じてるよ。

だから…。

いつてらっしやい。」

「いつてくるわね。」

女の子と星の子をのせた宇宙船が空の果てに消えたときハイドの瞳から

一粒の涙がこぼれた。ハイドはぐつとこらえた。

澄み切った空には数多の流星と朝日が輝いていた。

11月1日

今日は本当についていない。

ここまでひどい日はなかった。

そりゃ、オバケが大群で襲って来たり、発明品がほとんどフリーズしたり、ドラム缶が頭にぶつかりそうになった日もあった。

しかしせっかくの星くず祭りがぶち壊されて、花火の発射装置の開発をしていたわしがさらわれてしまう日なんて本当に考えられん。

わしのことをさらったUFOはどこに向かっているのかわからん。ひとまず寝ようと思ったが揺れと無重力のせいで寝付けない。こうして日記をつけようと思ったのだ。

11月2日

わしをさらったUFOは巨大な戦艦にたどり着いた。

わしをさらったのはどうやらクツパ軍団の奴らじやった。

対マリオ用決戦ロボを作れと脅しをかけてきた。

わしはそれを突っぱねようと思ったのじやが、

よく考えてみたら、わざとマリオ君が倒しやすいロボを作るのがいいと
考えた。

さて、明日から忙しくなるぞい。

そういえばルイージ君は大丈夫かのう…

11月3日

今日はとても目が疲れた…

というのも、最近のマリオ君は「スピン」というアクションを覚えたらしく、
その様子を映像にして分析したんじや。

ジャンプだけで壊されてしまうものをつくと奴らにひどい目にあわされる
わしにとってはいいい知らせだった。

どうやらスピンはモノを弾き飛ばしたり、滞空時間を延ばしたりすることが
できるらしい。

わしは明日から例のロボを作ろうと思った。今日は早く寝よう…

11月4日

今日は目覚めてからすぐにロボを作り始めた。寝ている間にアイデアがまとまっていたから、それを形にすることなどわけないことじゃった。

ロボは大きさが違うタイプをいくつつかつくってみた。

見た目はスマートでマリオ君が撃破しやすいこのロボたちをわしは

「ベーゴマン」と名付けた。

明日、それらが実戦投入されるため、見張りたちもいなくなるらしい。

わしは明日中にここから脱出するつもりじゃ。

今日は早く寝るとするか…

11月5日

ふう、緊張感から解放されたあとの紅茶はたとえがたいおいしさじゃの。

見張りがいなくなった隙に急いで食糧庫に改造を施し、

巨大戦艦から切り離すような形で宇宙船にしたんじゃ。

きつと奴らはわしがいなくなったのに気付いてびっくりしているじゃろう。

しかし、地球はどの方向じゃろうか…

幸い食糧はたくさんあるからいいものの、どうすれば…

まあ、そんなことは明日考えようかのう。

11月6日

なんだかヒマになってきたのう…
…
気のせいかのう…

11月7日

いい加減に地球の方向を目指さなければならぬのに
…
眠いのう、明日でいいか…

11月8日

眠っているのか、起きているのか
わからなくなってきたのう…

11月9日

ねむい

11日